令和６年度

北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題

（学部直進者等選抜前期募集）

高度教職実践専攻　高度教職実践専修

「小論文」

問題用紙

＜諸注意＞

1　試験監督者から「解答はじめ」の指示があるまでは、問題冊子を開かないこと。

2　問題は「Ⅰ　共通問題」と「Ⅱ　選択問題」からなっている。

3　「Ⅰ　共通問題」は受験者全員が解答すること。

4　「Ⅱ　選択問題」は以下の四つの問題から一つを選択し解答すること。

問題Ａ
問題Ｂ
問題Ｃ
問題Ｄ
} Ａ～Ｄのうち一つを選択

5　解答は別紙の解答用紙に記入すること。

令和６年度　北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題
（学部直進者等選抜前期募集）

「小論文」（１／５）　　高度教職実践専攻　高度教職実践専修

Ⅰ 共通問題

中央教育審議会は、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成 28 年 12 月 21 日）において、学習評価は、児童生徒の学習状況を的確に捉え、教員が指導の改善を図るとともに、児童生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするために極めて重要であると言及している。平成 29・30・31 年改訂学習指導要領においても、学習評価の充実が新たな項目として示された。

学校における学習評価の充実に向けた具体の方策について、次に示す三つのキーワードから、いずれか一つを用いて記述しなさい。その際、方策は複数示すこと。

① 学習評価の場面や方法
② 学習評価の妥当性や信頼性
③ 学年や学校段階間の円滑な接続

なお、字数は 600 字～800 字とする。

（配点１００点）

令和６年度　北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題
（学部直進者等選抜前期募集）

「小論文」（２／５）　　高度教職実践専攻　高度教職実践専修

Ⅱ 選択問題（問題Ａ ～ 問題Ｄのうち一つを選択）

問題Ａ

「中央教育審議会『令和の日本型学校教育』を担う教師の在り方特別部会」による「令和の日本型学校教育を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて」（審議まとめ）（令和３年 11 月 15 日）では、「新たな教師の学びの姿」として、以下の四点がまとめられた。

- 変化を前向きに受け止め、探究心を持ちつつ自律的に学ぶという「主体的な姿勢」
- 求められる知識技能が変わっていくことを意識した「継続的な学び」
- 新たな領域の専門性を身に付けるなど強みを伸ばすための、一人一人の教師の個性に即した「個別最適な学び」
- 他者との対話や振り返りの機会を確保した「協働的な学び」

これらに留意し「新たな教師の学びの姿」を具現化するため、下記の①及び②について記述しなさい。②については、複数の取組について言及すること。

① 学校現場においてどのような課題があると考えられるか

② ①で解答した課題に対して、学校としてどのような取組が必要か

ただし、学校種を明確にすること。その際、一般的な設定で構わないものとする。

なお、字数は 600 字～800 字とする。

（配点１００点）

令和６年度　北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題
（学部直進者等選抜前期募集）

「小論文」（３／５）　　高度教職実践専攻　高度教職実践専修

問題Ｂ

令和４年 12 月に改訂された「生徒指導提要」では、児童生徒の課題への対応を時間軸や対象、課題性の高低という観点から、生徒指導を２軸３類４層に構造化している。そのうち、「発達支持的生徒指導」とはどのようなことかについて、具体的に記述しなさい。

また、児童生徒が「自己の存在感を実感しながら、よりよい人間関係を形成し、有意義で充実した学校生活を送る中で、現在及び将来における自己実現を図っていくことができる」（平成 29・30・31 年改訂学習指導要領）ための支援として、あなたはどのように関わろうと考えるかを記述しなさい。その際、「発達支持的生徒指導」の考え方を踏まえるとともに、校内でのあなたの立場を明記したうえで具体例をあげて記述すること。

なお、字数は 600 字～800 字とする。

（配点１００点）

令和６年度　北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題
（学部直進者等選抜前期募集）

「小論文」（４／５）　　高度教職実践専攻　高度教職実践専修

問題Ｃ

中央教育審議会では、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（令和３年１月 26 日）によると、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図ることにより、平成 29・30・31 年改訂学習指導要領で掲げている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげることとしている。このことを踏まえ、各教科（一つ又は複数の教科を指定して）において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を授業にどのように位置付けて授業改善を図ることが求められているのか、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の関係性がわかるように具体的な例をあげて記述しなさい。

なお、字数は 600 字～800 字とする。

（配点１００点）

令和６年度　北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題
（学部直進者等選抜前期募集）

「小論文」（５／５）　　高度教職実践専攻　高度教職実践専修

問題Ｄ

平成 25 年 6 月に制定された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（いわゆる「障害者差別解消法」）を踏まえ、合理的配慮に関する説明をし、実施する上での留意点についてもまとめなさい。合理的配慮の説明では、ユニバーサルデザインとの違いも明記すること。また、合理的配慮が必要と思われる幼児、児童、生徒の特性を一つ取り上げ、その子供の特性に応じた対応の具体例を記述しなさい。

なお、字数は 600 字～800 字とする。

（配点１００点）

令和６年度　北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験解答用紙
（学部直進者等選抜前期募集）

「小論文」　（１／２）

高度教職実践専攻 高度教職実践専修	得 点　　点
受験番号（　　）	

Ⅰ　共通問題

10　　20　　30

10

20
600字

25

800字

「小論文」　（2／2）

高度教職実践専攻 高度教職実践専修	得 点　　点
受験番号（　　）	

Ⅱ　選択問題　　選択した問題に○を付けなさい。

〔　A・B・C・D　〕

10　　20　　30

10

20
600字

25

800字